

第32回 個性づくりテーマ展示

子どもの社会性



子どもは成長していくうえで、自分とは違ういろいろな人と接していくようになります。子どもはどのようにして自分と他者との違いを認識し、接していくようになるのか、子どもは発達していくなかでどのように社会性を育てていくのか、感情の発達と社会性の関係性を紹介します。

展示期間：2016年8月27日（土）～2016年10月27日（木）

展示場所：鷺宮図書館 5階 個性展示コーナー

子どもは、成長するに伴い、社会化していきます。社会化とは、子どもが所属している集団や社会において、他の人々との相互作用を通じた社会的に重要な行動や経験を得て、その集団や社会に適合した行動様式を獲得していく過程のことをいいます。

つまり、その集団や社会において適応的に生活していくために必要な言語をはじめ、習慣、知識、技能、態度、価値などを獲得していく過程のことを「社会化」といいます。

気持ちの育ち

赤ちゃんは機嫌がよいと笑い、おなかがすくと泣きます。赤ちゃんには大人のような複雑な感情はなく、自分の体を感じる「快-不快」をストレートに表現していきます。赤ちゃんの「快」は喜びや受容、愛情や笑み、甘えなどに分かれていきます。一方で、「不快」は怒り、憎しみ、嫉妬、おそれ、嫌悪、罪、恥などの気持ちに分化します。

感情は2種類あると考えられていて喜怒哀楽や好き嫌いなど自分の心の中で感じる感情を「個人的感情」といいます。一方で、人とかがかわる中で生まれる感情を「社会的感情」といいます。例えば、お母さんがほかの子どもとあそんでいたりと、嫉妬心が生まれます。ほかの子ができて自分ができないと、恥ずかしいという気持ちが起こります。嫉妬心や恥という気持ちは、社会的感情の一つです。



痛みから生まれる共感



赤ちゃんが「不快」を泣いて表現することで大人とのかかわりが生まれますが、「痛み」もまた、大人との共存関係を生み出す感覚です。

例えば赤ちゃんが体を何かにぶつけて泣けば、大人は「痛いね」と声をかけ、なでたりします。子どもが転べば、「大丈夫？痛くない？」と聞いたりもします。大人は、子どもの「痛み」に敏感です。痛い思いは、人の痛みを自分のことのように感じさせる力があります。痛みは、人と人との間に想像力と共感を生み出すといえます。

幼い子どもは、痛みを訴えることで大人の共感を引き出します。大人は、痛みを想像しながら、「子どもは大切」という思いを強めます。痛みへの思いは、子どもと大人との関係を深めてくれます。

プラスの感情とマイナスの感情

感情には、プラスの感情とマイナスの感情があります。楽しい、うれしい、面白いなどは子どもを前向きにする気持ちで、子どもの気持ちがプラスに傾くようにするには、大人の言葉掛けが大切になります。また、悲しい気持ちはマイナスの感情ですが、だからといって人のところから取り除くことはできません。子どもも、大切なものや人をなくしたり病気になったりすれば、不安や恐怖にとらわれます。しかし、4歳前後から現れる不安などのマイナスの気持ちが、「失敗しないように」と物事に対して丁寧に組みませたりもします。6歳前後からは「あした遠足だから早く寝よう」と考え出すようになります。寝坊しないように、あるいはよく寝て備えようとするようになります。こういう、「備える力」も、失敗したくないという恐れから起こるともいえます。

マイナスの気持ちは、子どもの成功や安心、安定にもつながります。マイナスの気持ちばかりが心を占めているのはよくありませんが、無くなればよいというわけではありません。プラス・マイナスの相反する感情ですが、それぞれに役割があります。重要なのは、2つの感情のバランスです。

マイナス感情と社会性の発達



1歳未満の乳児から喜怒哀楽の感情はありますが、1歳を過ぎたころから感情をはっきり表し始め、2歳になると言語化するようになり、3歳過ぎには「寂しい」という言葉も聞かれるようになります。こういったマイナスの感情は社会性の発達にとって大変重要な意味をもつことがあります。例えば、「寂しい」という言葉が聞かれだ

すのは友だちと遊ぶことが増えてくるころからで、「誰かと遊ぶのは楽しい。だから誰とも遊べないのは寂しい。」というように、人を求める気持ちにつながり、他者の「寂しい」気持ちの共感が、相手を思いやる優しい行動へとつながっていきます。

また、子どもの発達過程のなかで「不安」という感情が表れますが、そこで大切になるのが「人とのかかわり」です。子どもが不安を感じて泣くと、大人は抱きしめたり慰めたりして「かかわり」ますが、不安の表れによってできる愛着や「人によって不安を解消される」経験はとても大切で、その経験により、基本的な「人への信頼感」が育ちます。

このような経験を積み重ね、4～6歳には不安を避けようという「備える」行動が始まります。

出典：「SQ 生きかたの知能指数」
ダニエル・ゴールマン／著 日本経済新聞社
「0歳～6歳子どもの社会性の発達と保育の本」
湯汲 英史／著 学研教育出版

おすすめ展示図書

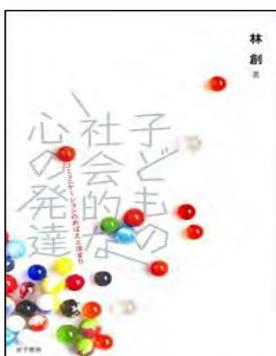


「0～6歳子どもの社会性の発達と保育の本」

湯汲 英史／著 学研教育出版

請求記号376.1ユ

0歳～6歳までの子どもの発達をテーマにした本。「愛着」「感情」「共感」「自我」「自立」について成長の様子を示しています。



「子どもの社会的な心の発達」

林 創／著 金子書房

請求記号376.1ハ

子どもの社会性の発達について、認知発達から述べています。

子どもが他者にも自分と同じく「こころ」があることに気づき理解を深めていく様子を「こころの理解」「道徳的批判」「コミュニケーション」といった点から解説しています。



「子どもの友だちづくりの世界」

岩田 純一／著 金子書房

請求記号376.1イ

友だちと一緒にいる時間のなかで、協同という気持ちがどのように芽生え、仲間意識が形成されるのか、子どもと保護者とのかかわりはどう変化していくかを説明しています。

展示図書リスト

このリストのほかにも多数取り揃えております。ぜひ展示コーナーへお立ち寄りください。

書名	著者名	出版社	請求記号	出版年
発達を学ぶ	森岡周	協同医書出版社	491.3 モ	2015
友達ができにくい子どもたち	石崎朝世	PHP研究所	378.8 イ	2013
はじめて学ぶ発達心理学	吉田直子	みらい	371.4 ヨ	2016
子どもの毎日の生活の中でソーシャルスキルが確実に身につく187のアクティビティ	エリザベス A. ソーター	黎明書房	378 ソ	2015
ライフスキル教育入門	青少年育成支援フォーラム	風人社	375.2 ラ	2015
親子でできる引っ込み思案な子どもの支援	クリストファー・A・カーニー	学苑社	379.9 カ	2014
そばにいる他者（ひと）を信じて子は生きる	折出健二	ほっとブックス新栄	370.4 オ	2015
他者とかかわる心の発達心理学	清水由紀	金子書房	376.1 タ	2012
子どもが伸びる保育45のことばかけ	湯汲英史	合同出版	376.1 コ	2016

SQって何？

人間の脳のなかには、他者の感情を読み取って連動する「社会脳」という神経回路が存在します。ビジネスから恋愛にいたるまで、あらゆるコミュニケーションの根底で、この「社会脳」が重要な働きをしています。

社会生活を営むために不可欠なこの社会脳の能力こそ、知能指数 IQ (intelligence Quotient)、感情指数 EQ (Emotional Quotient) につづく第三の知性、社会指数 SQ (Social Quotient) です。

思いやりや優れたリーダーシップも、いじめや犯罪といった社会の病理も、SQと密接に関わっています。より豊かで安心な社会をつくるため、わたしたちはSQを高めなくてはなりません。



出典：「SQ 生きかたの知能指数」
ダニエル・ゴールマン著／日本経済新聞社

子どもの社会性について調べるには

図書館の資料の調べ方、インターネットを活用した調べ方についてご紹介します。

1 【情報探索のキーワード】 効率的な情報検索には、適切なキーワードが必要です。

社会性	児童心理	発達心理
認知心理	メタ認知	愛着
自己認知	友だちづくり	ソーシャルスキル

2 【基本的な情報源】 辞書・事典類でテーマについて基本的な情報を入手しましょう。

資料情報	請求記号	配架場所
発達心理学辞典	143.0ハ	中央参考室
育児の基本大百科	599イ	5階
子どものからだと心白書	498.7コ	5階

◎中央図書館参考室では、育児に関する統計や白書を所蔵しています。

資料情報	分類
子ども・子育て白書 平成24年版 内閣府／編	369.4 コ
子ども白書 2015年版 日本子どもを守る会／編	369.4 コ
保育白書 2015年版 全国保育団体連絡会／編	376.1 ホ

3 【図書を探す】

●館内所蔵を探す

◎ テーマの棚に行って探す

図書館の本は主題ごとに棚に並んでいるので、請求記号の最初の数字を参考にして同じ主題の本を探すことができます。

分類	分野	分類	分野	分類	分野
143	発達心理学	361.4	社会心理学	371.4	児童心理学
376.1	幼児心理学	491.3	生理学		

◎ 中野区立図書館利用者開放端末（OPAC）で探す。

資料のタイトル、著者名、出版社名などから、中野区立図書館所蔵の資料を検索できます。

中野区立図書館のHP <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/>

中野区立図書館 HP（携帯版） <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/i/>

● 東京都内公立図書館で所蔵されている図書を探す。

◎「東京都立図書館統合検索」 <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

● 国内で刊行されている図書を探す。

◎「国立国会図書館サーチ」 <http://www.ndl.go.jp/>

◎「Books.or.jp」 <http://www.books.or.jp/>

国内で発行された入手可能な書籍が検索できます。出版社のホームページやオンライン書店へのリンクもあります。

4 【オンラインデータベースで調べる】

中央図書館では、参考資料コーナーの利用者開放インターネット端末で、以下のデータベースをご利用いただけます。

データベース	収録期間と主な内容
官報情報検索サービス	1947年5月3日から当日までの官報記事の検索
日経テレコン	1975年からの日経4紙（経済・産業・金融・流通）の記事
聞蔵Ⅱビジュアル	1926年から1945年までの朝日新聞紙面イメージ 1945年から当日までの新聞の記事 ほか
MAGAZINE PLUS	1981年からの一般紙・総合誌の雑誌記事検索や学術論文
WHO PLUS	歴史上の人物から現代の人物まで約32万人のプロフィール
D1-Law.com	判例情報、法律の改廃記録、法律判例文献情報 など

3 【インターネットを利用する】

●中野区の子育て情報を知る

◎中野区子育て情報（中野区役所）

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp>

◎暮らしのガイド「子ども・教育」>「学習・遊び場・活動」（中野区役所）

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/guide/003/006/index.html>

●その他お役立ちサイト

◎愛育ネット

<http://www.aiikunet.jp/>

◎子育てネット

<http://i-kosodate.net/>

◎全国子ども会連合会

<http://www.kodomo-kai.or.jp/>

◎ベネッセ

<http://www.benesse.co.jp/>

◎子どもの発達科学研究所

<http://kodomolove.org/>



進む子どもの非社会化

社会化に影響を与える他者のことを「社会化のエージェント」といいますが、子どもにとっての社会化のエージェントは、家族、教師そして仲間などです。

一般に、子どもが年長になるほど家族から教師、そして仲間へとエージェントが変わっていき、その影響が大きくなっていきます。発達過程におけるこのようなエージェントの関係を通して、子どもは社会性を高め、所属集団への社会化を促進していくのです。

社会的環境の変化から子どもの社会化について分析した教育社会学者門脇厚司は、子どもの社会化にとって最も重要な他者、すなわち社会化のエージェントとの直接的な交流が少なくなっていること、とくに大人との交流が極端に少なくなっていることが、子どもの社会化に異変をもたらしていると指摘しています。いじめ、不登校、退学、引きこもりなどの問題行動は、子どもの社会力の衰弱、すなわち人が人をつなぎ、社会を作っていく力の衰弱によるものと見ています。



また、社会力の衰弱を促しているのが、子どもの非社会化であるとしています。非社会化を一言でいえば、「自分は社会と関係していない」という心情ということです。

子どもの非社会化の特徴として、他者とかかわるのが嫌いでそれを苦痛に感ずる性向が強いこと、他者に対する関心が低く、他者を理解しようとする意識も低いために、他者の立場に立って考え共感することが難しいこと、その結果他者との相互交渉が少なくなって孤立し、人間や社会に対する不信感や不満感が強くなることなどをあげています。

子どもの非社会化は、人間関係が希薄になっている現代社会の中でいっそう強まっており、かつ年齢的にも広がる傾向にあるといえます。